

障害児の地域におけるケアのあり方と ソーシャルワークとしての対応について

—母親の意識を中心として—

研究第9部 吉沢英子・中 一郎

<はじめに>

障害児の全員就学が実施されて間もない今日、諸所において、具体的な福祉阻害現象が惹起されてきている。教育委員会、児童相談所、施設等、関係機関の相互連携のもとに障害児にとって有効かつ意味のある生活展開がなされることが必要である。それは理想的には、当然の事でありながら、具体的にはそれと無関係に予期せざる問題が、地域社会との関係過程にみられている。

しかし、各領域間、それに加えて地域住民のチームワークによる障害児への対応土壌を創り出すことと同時に、身近かに対応する親の日常生活における障害児を通じての意識、地域社会に対する受けとめ方の状況を明確にしておく必要がある。その実態をふまえて、コミュニティケアの方向をさぐり、地域内の相談機関のあり方、及びソーシャルワーカーの機能として、いかなる点に焦点をあてていくかを導き出したと考えている。さらに地域における相談、治療機関、家庭の親との関係にソーシャルワーカーの介入することの意味を検討すべき必要に迫られてきている。

今回は、さきにも述べたように、母親の影響を受けやすい父親の存在、及び母親の地域社会に対する意識を中心として、ソーシャルワーク的アプローチを試行しようとしたものである。障害児の生活にとって母親の存在は非常に大きいことから、とくに母親の意識を中心としながら、まず母親へのソーシャルワーク的アプローチを考察するものである。

I 研究目的及び方法

子どもが成長発達する上で、その主たる養育者である母親の影響力は絶大である。ここから、子どもをよくするも悪くするも母親次第という考え方も出てくるわけであるが、これは極論としても、子どもにとって母親は重要な存在であることには変りはない。まして、その子ど

もが障害をもっている場合には、一層のこと母親の存在や役割が重要な意味をもつものといえよう。

本研究では、障害児をもつ母親に焦点をあて、母親と父親とのかかわり方が母親の家族及び地域社会に対する意識に、どのような影響を与えるかという問題を究明することをひとつの目的としている。そしてもうひとつの目的は、地域社会に対する母親の態度が何に影響し、何によって規定されるかを明らかにし、ソーシャルワークとしての地域ケアのあり方を考究するものである。

対象：全国心身障害児福祉財団療育相談センターに
来所した母親 1071名
方法：郵送による質問紙法
調査日：昭和54年1月1日現在（53年10月～）
回答数：有効回答数 544（回収率50.8%）

II 結果

(1) 父親の役割 Role Taking が母親に及ぼす影響について

通常、子どもの主たる養育者は母親であるが、母親だけが養育の責任を負うものでもち論ないわけで、当然そこには父親も何らかの形で役割を果たしているわけであり、また果たさなければならない責任を負っている。しかし、ひとくちに父親の役割といっても、その内容は種々多岐にわたっているわけで単一の役割だけを果たせばよいというものではない。そこで、ここで母親が特に障害児をもつ母親の立場から、父親（本来は夫というべきであるが障害児の親という意味あいをもたせる為以後父親、母親という表現を用いることにする）にどのような役割を果たしてもらいたいと思っているかということをもまずみていくことにしよう。

(a) 父親に期待する役割の内容について
第1表は、障害児をもつ母親が、父親にどんな役割を果たしてもらいたいと望んでいるかを選択肢の中からただ選べさせた結果である。これをみると、「母親自身に

第1表 母親が父親に期待する役割

父親に期待する役割の内容	1. 障害児に対する直接的な世話や介助	2. 障害児以外の家族員としての世話・援助	3. 母親に対する精神的な支えや理解	4. しつこく頼んでくれること	5. 家庭外の雑務処理や付き合い	6. その他	7. 現在のままで満足しており望むことはない	N. A.	非該当	計
実数	44	10	217	36	7	27	186	14	3	544
%	8.1	1.8	39.9	6.6	1.3	4.9	34.2	2.6	0.6	100.0

対しての精神的な支えや理解」を父親に望んでいる母親が一番多く39.9%に達している。次に、「現在のままで満足しており特に望むことはない」と答えた母親が34.2%いることが判った。また、「障害児に対する直接的な世話や介助」をしてほしいと望んでいる母親は全体の中で8.1%となっており、父親に障害児の世話を期待する母親の数はあんがい少ないといえよう。これらの結果から、障害児をもつ母親は、その子どもに関して、いかに自分が苦勞し悩み、不安をもっているかを父親にもっと分ってもらいたいという願いが強いといえよう。これは、裏返すと、障害児をもつ父親は、母親の大変さをあまり理解していないともいえよう。この結果が障害児をもつ親達に共通している現象ならば深刻な事態といわざるをえない。

反面、現在の父親の役割に満足を示している母親も3人に1人の割合であり、一概に父親を責める訳にはいかないようである。そこで、自分に対する精神的な支えや理解をしてほしいと望んでいる母親と、現在のままで満足と答えた母親とを比較考察し、その背景をもう少し詳しくみていくことにする。

b) 障害児に対する父親の世話の程度との関係

父親に対して精神的な支えや理解を望んでいる母親と、現在のままで満足と感じている母親との違いが、どこから生じてくるかをみていく訳であるが、まず初めに父親の障害児に対する世話の良し悪しが関係するかどうかを第2表でみてみよう。

第2表をみると、精神的な支えや理解を望んでいる母親達(以後、不満群と呼ぶ)の障害児に対する父親の世話の程度に対する評価で、自発的に世話してくれると好意的に受け止めている割合は全体の30.9%であり、一方、現在のままで満足と答えた母親達(以後、満足群と呼ぶ)のその割合は67.7%に達しており2倍以上の比率の差がみられる。なお、第2表の役割の欄で「その他」という見出しがあるが、これは、第1表の3.「母親に対する精神的な支えや理解」と7.「現在のままで満足しており望むことはない」という項目を除いた他の5項目1. 2. 4. 5. 6. を合計したものであり、対照群として設けたことを付記しておく。

第2表 障害児に対する父親の世話の程度と父親に期待する役割との関係

役割	世話の程度	1. 自発的に世話	2. 頼めば世話	3. あまり世話をしてくれない	4. 全く世話をしてくれない	N. A.	合計
あなた自身の精神的支え理解(不満群)	67 (30.9)	103 (47.5)	34 (15.7)	3 (1.4)	10 (4.6)		217 (100.1)
現在で満足している(満足群)	126 (67.7)	32 (17.2)	10 (5.4)	2 (1.1)	16 (8.6)		186 (100.0)
その他(対照群)	41 (33.1)	50 (40.3)	17 (13.7)	6 (4.8)	10 (8.1)		124 (100.0)
N. A.	2 (14.3)	3 (21.4)	2 (14.3)	1 (7.1)	6 (42.9)		14 (100.0)
非該当						3	3
合計	236 (43.4)	188 (34.6)	63 (11.6)	12 (2.2)	45 (8.3)		544 (100.1)

さて、第2表から、満足群の父親の方が不満群の父親よりも障害児に対する世話の程度が、はるかに積極的であることが判る。換言すれば、母親が父親の役割に対して抱く満足感・不満足感は、父親の障害児に対する世話の程度と関係するといえよう。ただし、第1表でみた通り、障害児に対する直接的な世話や介助を父親に期待する役割としてあげた母親は1割にも達していないし、この役割を望んだ母親は対照群であるその他の欄に組み込まれているわけであるから、ここでいう母親が父親の役割に対して抱く満足感・不満足感という意味は、あくまでも精神的な支えや理解を得られているか否かということである。

つまり、父親に精神的支えや理解を望む背景には、父親が障害児に対して積極的な世話をしないという事実がその一因となっていると考えてもよからう。同じく、父親の役割は現在のままで満足と答えた母親達の多くは、障害児の世話を積極的にしてくれる父親をもらっていることが満足の一因となっているといえよう。

c) 母親の他の家族員に対する世話に及ぼす影響

ここでは、母親が父親の役割に不満を抱いている場合と満足している場合とでは、他の家族員に対する母親の世話(面倒見)の程度が影響されるか否かについてみていくことにする。

第3表をみると、父親の役割に不満を抱いている母親

第3表 父親の役割に対する満・不満と母親の他の家族員に対する世話との関係

父親の役割に対する満・不満	他の家族員に対する世話				N A	合計
	1. 十分	2. まあまあ	3. あまり	4. ほとんど		
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	52 (24.0)	123 (56.7)	30 (13.8)	4 (1.8)	8 (3.7)	217 (100.0)
現在で満足している(満足群)	81 (43.5)	79 (42.5)	13 (7.0)	4 (2.2)	9 (4.8)	186 (100.0)
その他(対照群)	21 (16.9)	76 (61.3)	16 (12.9)	6 (4.8)	5 (4.0)	124 (99.9)
N. A.	4 (28.6)	2 (14.3)	1 (7.1)	7 (50.0)		14 (100.0)
非該当		2		1		3
合計	154 (28.3)	284 (52.2)	61 (11.2)	15 (2.8)	30 (5.5)	544 (100.0)

よりも、それに満足している母親の方が他の家族員の世話を十分にしていることが判る。しかし、3.あまり世話ができない、4.ほとんど世話ができないと答えている母親は、不満群で15.6%、満足群で9.2%となっており、両群の差の開きは他の家族員の世話も十分にしているという項目に対する両群の反応の差の開きよりもはるかに少い。この結果の解釈として、父親の役割に満足している母親でも、障害児がいるために他の家族員の世話をあまりできないと思っているものが10人に1人弱の割合である訳であり、ここに障害児をもつ家庭の大変さの一面が感じられるようである。

いづれにせよ、父親が父親としての役割を十分果している場合は、母親も他の家族員の世話を余裕をもってすることができるし、父親が役割を十分果していない場合は、母親は他の家族員の世話までは十分に手がまわらないことがこの結果から判った。

d) 家族に与えるマイナス度の評価に及ぼす影響

第4表～第7表は、障害児が家族の中にいることが家
第4表 父親の仕事に与えるマイナス度の評価

群	マイナス度				N. A.	合計
	1. 非常に	2. 少	3. あまり	4. 少		
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	12 (5.5)	47 (21.7)	91 (41.9)	65 (30.0)	2 (1.0)	217 (100.1)
現在で満足している(満足群)	7 (3.8)	36 (19.4)	49 (26.3)	91 (48.9)	3 (1.6)	186 (100.0)
その他	6 (4.8)	28 (22.6)	47 (37.9)	36 (29.0)	7 (5.6)	124 (99.9)
N. A. (非該当を含む)		2 (11.8)	3 (17.7)	4 (23.5)	8 (47.1)	17 (100.1)
合計	25 (4.6)	113 (20.8)	190 (34.9)	196 (36.0)	20 (3.7)	544 (100.0)

族にどの程度マイナスの影響を与えるかを母親に評価させたものである。これをみると、父親の役割に不満をもつ母親も満足している母親も、障害児が家族の中にあることが「他のきょうだいの将来に与えるマイナスの影響」を一番深刻に受け止めていることが判る。ただし、非常にマイナスとなるという厳しい受け止め方をしているのは、不満群に多いこと、逆に、少しもマイナスな

第5表 他のきょうだいの将来に与えるマイナス度の評価

群	マイナス度				N. A.	合計
	1. 非常に	2. 少	3. あまり	4. 少		
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	32 (14.7)	85 (39.2)	57 (26.3)	20 (9.2)	10 (6.6)	217 (100.0)
現在で満足している(満足群)	8 (4.3)	58 (31.2)	60 (32.3)	44 (23.7)	16 (8.6)	186 (100.1)
その他	18 (14.5)	46 (37.1)	31 (25.0)	13 (10.5)	16 (13.0)	124 (100.1)
N. A. (非該当を含む)	2 (11.8)	2 (11.8)	4 (23.5)	2 (11.8)	7 (41.2)	17 (100.1)
合計	60 (11.0)	191 (35.1)	152 (27.9)	79 (14.5)	62 (11.4)	544 (99.9)

第6表 家族内の人間関係の結びつきに与えるマイナス度の評価

群	マイナス度				N. A.	合計
	1. 非常に	2. 少	3. あまり	4. 少		
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	11 (5.1)	29 (13.4)	95 (43.8)	76 (35.0)	6 (2.8)	217 (100.1)
現在で満足している(満足群)	4 (2.2)	22 (11.8)	57 (30.6)	99 (53.2)	4 (2.2)	186 (100.0)
その他	9 (7.3)	16 (12.9)	59 (47.6)	34 (27.4)	6 (4.8)	124 (100.0)
N. A. (非該当を含む)	2 (11.8)	4 (23.5)	4 (23.5)	3 (17.7)	4 (23.5)	17 (100.0)
合計	26 (4.8)	71 (13.1)	215 (39.5)	212 (39.0)	20 (3.7)	544 (100.1)

第7表 親類・知人との付き合いに与えるマイナス度の評価

群	マイナス度				N. A.	合計
	1. 非常に	2. 少	3. あまり	4. 少		
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	23 (10.6)	69 (31.8)	84 (38.7)	37 (17.1)	4 (1.8)	217 (100.0)
現在で満足している(満足群)	6 (3.2)	36 (19.4)	68 (36.6)	73 (39.2)	3 (1.6)	186 (100.0)
その他	15 (12.1)	30 (24.2)	54 (43.5)	21 (16.9)	4 (3.2)	124 (99.9)
N. A. (非該当を含む)	1 (5.9)	3 (17.7)	3 (17.7)	3 (17.7)	7 (41.2)	17 (100.2)
合計	45 (8.3)	138 (25.4)	209 (38.4)	134 (24.6)	18 (3.3)	544 (100.0)

第8表 障害児に対する地域社会の受け止め方についての評価

障害児に対する地域社会の反応	1. 理解ありよく受けいれる	2. 努力が感じられる	3. あまり関心示さない	4. やや偏見をもった反応	5. 偏見が強い	N. A.	合計
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	19 (8.8)	33 (15.2)	131 (60.4)	26 (12.0)	3 (1.4)	5 (2.3)	217 (100.1)
現在で満足している(満足群)	38 (20.4)	28 (15.1)	93 (50.0)	17 (9.1)		10 (5.4)	186 (100.0)
その他	15 (12.1)	25 (20.2)	66 (53.2)	13 (10.5)	1 (0.8)	4 (3.2)	124 (100.0)
N. A.	1 (5.9)	2 (11.8)	12 (70.6)	1 (5.9)		1 (5.9)	17 (100.1)
合計	73 (13.4)	88 (16.2)	302 (55.5)	57 (10.5)	4 (0.7)	20 (3.7)	544 (100.0)

らないと考えているものは満足群に多いことからみると、障害児が家族の中にあることのマイナスの影響をどの程度深刻に受け止めるかは、父親の母親に対する理解度と関係するといってもよからう。この傾向は、第4、6、7表にも共通してみられ、父親の精神的な支えがいかに母親の精神衛生に大きな影響を与えているかを示しているものといえよう。

また、父親に精神的な支えや理解をもとめている母親達(ここでいう不満群)は、第7表をみて明らかなように、親類・知人との付き合いの上で障害児がいることのマイナス度を強く感じていることが判る。これは、つまり、親類・知人との付き合いにおいて、父親にもう少し協力や理解があれば、母親の心身両面の負担も軽くなることを示唆しているように思われる。

e) 障害児に対する地域社会の受け止め方の評価に及ぼす影響

ここでは、地域社会の障害児に対する受け止め方の評価を両群の母親達がどのようにしているかをみていく。

第8表をみると、障害児に対して地域社会が理解ありよく受けいれてくれると非常に好意的な評価をしているのは、不満群で8.8%、満足群で20.4%となっており、満足群の母親の方が地域社会に対して好感をもっていることが判る。また、障害児を受けいれようとする努力が感じられるという地域社会に対する評価は両群とも15%強で差はみられない。そして、やや偏見をもった反応を感じる、偏見が強いという拒否的な受け止め方を地域社会がしていると思っているものは不満群で13.4%満足群で9.1%となっており、不満群の方が、地域社会の障害児に対する反応に批判的な評価がやや多くみられる。

f) 母親のサークル活動等に及ぼす影響

第9表の親の会への入会率をみると、現在入っていると答えているのは不満群の方が満足群よりも若干多く、逆に以前も現在も全然入っていないと答えているの

は、不満群よりも満足群の方が若干多い程度で、あまり大きな差はみられない。

また、(第10表の親の会以外のサークル等の活動状況をみると、両群ともあまり変らない。

これらの結果から父親の役割に対しての満足・不満が母親の社会的活動の状況に影響を及ぼすとはいえないことが判った。つまり、親の会、サークル等の活動は、母親自身のパーソナリティや子どもの障害の程度とか年齢等の条件差によって違ってくるものと思われる。

第9表 親の会への参加度

参加の状態	1. 入っている	2. 以前入っていた	3. 将来入りたい	4. 以前も現在も入っていない	N. A.	合計
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	152 (70.0)	17 (7.8)	12 (5.5)	33 (15.2)	3 (1.4)	217 (99.9)
現在で満足している(満足群)	117 (62.9)	18 (9.7)	6 (3.2)	40 (21.5)	5 (2.7)	186 (100.0)
その他	85 (68.5)	5 (4.0)	7 (5.6)	26 (21.0)	1 (0.8)	124 (99.9)
N. A.	10 (58.5)	2 (11.8)		4 (23.5)	1 (5.9)	17 (100.0)
合計	364 (66.9)	42 (7.7)	25 (4.6)	103 (18.9)	10 (1.8)	544 (99.9)

第10表 親の会以外のサークル活動の状況

サークル活動の状況	1. 入っている	2. 以前入っていた	3. 将来入りたい	4. 以前も現在も入っていない	N. A.	合計
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	52 (24.0)	12 (5.5)	16 (7.4)	131 (60.4)	6 (2.8)	217 (100.1)
現在で満足している(満足群)	47 (25.3)	11 (5.9)	9 (4.8)	107 (57.5)	12 (6.5)	186 (100.0)
その他	16 (12.9)	7 (5.6)	6 (4.8)	82 (66.1)	13 (10.5)	124 (99.9)
N. A.	1 (5.9)	2 (11.8)		9 (52.9)	5 (29.4)	17 (100.0)
合計	116 (21.3)	32 (5.9)	31 (5.7)	329 (60.5)	36 (6.6)	544 (100.0)

第11表 障害児のごとで特に望むこと

望むこと 群	1. 子供の 症状見通し	2. 相談・ 指導して くれる専 門家	3. 社会一 般の理解	4. 施設・ 設備	5. 友 達	6. 援助し てくれる 人	7. 話し合 える場・ 機会	8. 家族の 協理解	9. その他	N. A.	合 計
あなた自身の精神的支え、理解(不満群)	35 (16.1)	37 (17.1)	57 (26.3)	49 (22.6)	14 (6.5)	5 (2.3)	3 (1.4)	2 (0.9)	11 (5.1)	4 (1.8)	217 (100.1)
現在で満足している(満足群)	21 (11.3)	19 (10.2)	62 (33.3)	33 (17.7)	14 (7.5)	4 (2.2)	1 (0.5)	1 (0.5)	21 (11.3)	11 (5.9)	186 (99.9)
その他	12 (9.7)	16 (12.9)	31 (25.0)	37 (29.8)	8 (6.5)	1 (0.8)	3 (2.4)	1 (0.8)	14 (11.3)	1 (0.8)	124 (100.0)
N. A.	3 (17.7)	2 (11.8)	2 (11.8)	2 (11.8)	1 (5.9)	1 (5.9)			2 (11.8)	4 (23.5)	17 (100.2)
合 計	71 (13.1)	74 (13.6)	152 (27.9)	121 (22.2)	37 (6.8)	11 (2.0)	6 (1.1)	4 (0.7)	48 (8.8)	20 (3.7)	544 (99.9)

g) 障害児をめぐる、特に望むことへの影響
ここでは、父親の役割に満足している母親(満足群)と父親に精神的な支えや理解を望んでいる母親(不満群)とでは、障害児に関して望んでいることに違いがあるのかについてみていく。

第11表をみると、障害児のごとで特に望むことは、両群とも「社会一般の障害児に対する理解がほしい」ことを第1位にあげている。続いて「障害児のための施設・設備がほしい」ことを両群とも第2位に望んでいることが判る。そして、「子どもの症状や見通しについて知りたい」という望みと「子どものことで相談や指導してくれる専門家がほしい」という望みを両群とも同じようにあげている。つまり、これらの結果から、障害児のごとで母親が特に望むことは大体似たようなことであり、父親の母親に対する理解度の違いによって特に影響されるとはいえないことが判った。

しかし、もう少し細かく第11表をみていくと、不満群の母親達は「家族の協力や理解がほしい」という項目にもっと多くの回答があってもよいはずであるが実際には217人中の2人だけしかいない。これは、質問の仕方によるものと思われる。つまり、9項目の選択肢の中から1つだけを選ぶようにしたために、本来ならこの項目も選びたいが、それよりもっと深刻な事があるのではそちらの項目を選んだというものが相当いるものと思われる。しかし、データに現われた結果でしか物は言えないので、この考えはあくまで推測の域を出ない。それはともかくとして、障害児をもつ母親は、社会一般の障害児に対する理解を強く望んでいることが判ったわけであるが裏を返せば、障害児に対する社会一般の認識や受け入れの程度がまだまだ不十分であるといえよう。

以上が、父親の役割が母親に及ぼす影響についての結果であるが、最後にもう一度まとめてみると次のようになる。

① 母親が父親に期待する役割は、自分に対する精神的な支えや理解してくれることをあげる者が最も多かった。

続いて現在のままで満足と答えたものが多く、この2つのグループで全体の4分の3を占めている。

② 上記の2グループを比較検討した結果、父親(夫)の役割に満足している母親は、精神的な支えや理解を父親(夫)にもとめている母親と比べて、家族関係において安定した状態にあり、また、地域社会に対しても好意的な評価をする傾向がある。

③ 母親の社会的な活動や子どものことで望む事に関して、父親(夫)の理解度等にあまり左右されず、障害児をもつ母親の共通の傾向がみられる。

④ 障害児をもつ母親は、社会一般の障害児に対する理解を強く望んでいる。

(2) 地域社会への居住希望の有無を規定する要因について

ここでは、現在住んでいる地域に永住したいと思っている母親達と、転居を望んでいる母親達のそれぞれの背景を探り、地域社会の中での障害児をもつ母親の実体をみていくことにする。

a) 隣近所に往来できる人の有無との関係

第12表は、永住希望の母親と転居を希望している母親の、隣近所に気軽に往来できる人の有無を示したものである。これをみると、その地域に永住したいと思っている母親の方が、転居を望んでいる母親よりも、隣近所に気軽に往来できる人がいると答えている割合がわずかながら多い。しかし、この程度の差では断定的なことはいえず、結局のところ、居住希望の有無と隣近所に気軽に往来できる人の有無とはあまり関係ないようである。

b) 親の会及びサークル活動からみた違い

その地域に永住を希望している母親と転居を希望して

第12表 隣近所に気軽に往来できる人の有無と関係

居住希望の有無	往来できる人の有無		N. A.	合計
	1. いる	2. いない		
1. 永住希望	232 (63.2)	125 (34.1)	10 (2.7)	367 (100.0)
2. 移転希望	89 (57.4)	63 (40.6)	3 (1.9)	155 (99.9)
N. A.	9 (40.9)	9 (40.9)	4 (18.2)	22 (100.0)
合計	330 (60.7)	197 (36.2)	17 (3.1)	544 (100.0)

いる母親とは、親の会やサークル活動における参加の程度の違いがあるかどうかを第13表、第14表でみていく。

第13表 親の会への入会の有無との関係

居住希望の有無	親の会へ入会の有無		N. A.	合計
	1. 入っている	2. 入っていない		
1. 永住希望	241 (65.7)	120 (32.7)	6 (1.6)	367 (100.0)
2. 移転希望	111 (71.6)	42 (27.1)	2 (1.3)	155 (100.0)
N. A.	12 (54.6)	8 (36.4)	2 (9.1)	22 (100.0)
合計	364 (66.9)	170 (31.3)	10 (1.8)	544 (100.0)

第14表 サークル活動との関係

居住希望の有無	サークル活動への参加の有無		N. A.	合計
	1. 入っている	2. 入っていない		
1. 永住希望	86 (23.4)	262 (71.4)	19 (5.2)	367 (100.0)
2. 移転希望	27 (17.4)	116 (74.8)	12 (7.7)	155 (99.9)
N. A.	3 (13.6)	14 (63.6)	5 (22.7)	22 (99.9)
合計	116 (21.3)	392 (72.1)	36 (6.6)	544 (100.0)

第15表 障害児に対する地域社会の受け止め方との関係

居住希望の有無	障害児に対する地域社会の反応					N. A.	合計
	1. 理解あり、よく受けいれる	2. 努力が感じられる	3. あまり関心を示さない	4. やや偏見をもった反応	5. 偏見が強い		
1. 永住希望	62 (16.9)	58 (15.8)	210 (57.2)	30 (8.2)	7 (1.9)	367 (100.0)	
2. 移転希望	10 (6.4)	27 (17.4)	82 (52.9)	27 (17.4)	5 (3.2)	155 (99.9)	
N. A.	1 (4.6)	3 (13.6)	10 (45.5)	8 (36.4)	22 (100.0)		
合計	73 (13.4)	88 (16.2)	302 (55.5)	57 (10.5)	20 (3.7)	544 (100.0)	

まず、第13表の親の会の入会状況との関係を見ると、転居を希望している母親の方が、永住を希望している母親よりも、入会している比率が若干高くはなっているが、これも有意な差とはいえず、結局はあまり関係ないといわざるを得ない。

次に第14表の親の会以外のサークル等の活動との関係を見ると、永住を希望している母親の方がいく分活発な活動をしているようであるが、これもまた有意な差でなく、親の会の入会状況と同じように、居住希望の有無との関係はあまりないようである。

c) 障害児に対する地域社会の受け止め方の違いとの関係

ここでは、地域に永住を希望している母親と、転居を希望している母親とは、障害児に対する地域社会の受け止め方の評価に違いがあるか否かをみていく。第15表を見ると、永住を希望している母親の方が、転居を希望している母親よりも、障害児に対する地域社会の受け止め方が理解があり、よく受け入れてくれていると好意を感じる割合が高くなっている。逆に、転居を希望している母親は、地域社会が障害児に対して偏見を持っていると思う傾向が強いといえよう。

いずれにせよ、障害児を地域社会がどの程度受け入れているかということが、永住か転居かという母親の居住希望の決定に何らかの影響を及ぼしていると思われる。

d) 居宅の状況との関係

今の所にずっと住みたいと思うか否かは、地域社会の物理的、人的な環境に左右されると思われるが、あんがい現在住んでい居宅の状況によっても違いがでてくるとも考えられるのでこれについてみていくことにする。まず、家の所有形態と居住希望との関係を第16表でみると、永住を希望しているものの中80%が自分の持家に住んでおり、移転を希望しているものの持家率51%よりもかなり高いことが判る。つまり、永住か転居を決める要因の一つとして持家か借家かという条件の違いが影響するものと思われる。

第16表 家の所有形態との関係

居住希望の有無	家の所有形態			合計
	1. 自家	2. 借家	N. A.	
1. 永住希望	297 (80.9)	68 (18.5)	2 (0.6)	367 (100.0)
2. 移転希望	80 (51.6)	74 (47.7)	1 (0.7)	155 (100.0)
N. A.	11 (50.0)	7 (31.8)	4 (18.2)	22 (100.0)
合計	388 (71.3)	149 (27.4)	7 (1.3)	544 (100.0)

第17表 住居についての不満の有無との関係

居住希望の有無	住居の不満			合計
	1. 特にない	2. ある	N. A.	
1. 永住希望	288 (78.5)	68 (18.5)	11 (3.0)	367 (100.0)
2. 移転希望	91 (58.7)	55 (35.5)	9 (5.8)	155 (100.0)
N. A.	11 (50.0)	2 (9.1)	9 (40.9)	22 (100.0)
合計	390 (71.7)	125 (23.0)	29 (5.3)	544 (100.0)

次に、住居についての不満と居住希望との関係を第17表でみると、永住を希望している母親には住居についての不満はあまりないようであるが、転居を希望している母親には、住居の不満がやや強い傾向がみられる。

これらの結果から、居宅の状況が居住希望の決定に何らかの影響をもたらすものといえよう。

以上が、地域社会への居住希望の有無を規定する要因についての結果であるが、それを整理すると次のようになる。

- ① 近隣に気楽に往来できる人が存在する、しないという問題と、その土地に永住するか転居するかという決定因とは、それほど重要なかわりをもっていない。
- ② 母親の地域社会でのサークル活動、親の会等での活動の状況と、そこに永住するか否かも直接的には結び付かない。
- ③ 地域社会の障害児に対する受けとめ方に満足している母親は、そこに永住したいという希望が高い。
- ④ 転居を望んでいる母親は、地域社会の障害児に対する受けとめ方に偏見があると思込んでいる傾向がみられる。
- ⑥ 居宅の状況は、居住希望の有無に何らかの影響をもつようである。

III 地域ケアのあり方に対する若干の提言

以上、父親の役割が母親に及ぼす影響及び地域社会への居住条件を規定する要因の二点に焦点をしばって考察してきた。加えて、この調査で明らかになった母親の情緒的安定度、パーソナリティと、障害児に対する診断の受けとめ方に相関関係が強いことを前提におき、地域ケアのあり方について若干のまとめを提言としたい。

全国療育相談センターに対する利用者の希望をみると、常時に相談の機会が得られ、情報の提供を得たいとするもの20.7%、長期的診断へのアプローチを望むもの20.7%、指導訓練の場の日常的提供を望むもの18.9%となっている。これはまた障害児の経年的動向とあわせ考えて、地域の専門関係機関、施設と障害児をもつ家庭とのコーディネート機能を地域内で果していくことの必要性の強化を示唆していることになろう。また母親が父親に求めるものは、精神的支え、とくに障害児の日常的介護の中心的存在であることを受けとめてくれる存在である。具体的に介護に手をかすという事よりも受容する存在そのものであることがわかる。したがって地域ケアにおける基本は、家族全体に対するアプローチと母親へのアプローチへの配慮ということになろう。障害児に対する一般の地域住民の理解を求めているが、これは母親自身の情緒的安定との関係が見出されるのである。

障害児に対する訪問指導、看護、家庭への援助など、個別的要求に対するサービスは徐々に浸透しつつあるが、多面的（生活全体）要求は、地域全体で充足していかなければならない。したがって住民の精神性または共同性をより重視する福祉社会づくりをしていく拠点を明示していくこと、さらに住民の要求に対応するための施設、機関のネットワークづくりを志向する機能社会を創る手だてを講じ、それを実践する土壌を耕さねばならない。いわばコミュニティケアのその地域の実情に即した具現化にほかならない。前述したごとく、とくに相談機能の充実、配置の問題で、既存の社会資源の活用の仕方をつくめてのシステム化をはかっていく必要もあろう。調査結果にもあらわれているように、現在の居住地域で障害児の受けとめ方（母親自身の感じ）に満足している場合に永住希望が高く、地域社会の偏見を感じる（母親側の問題もあろうが）とするものが転居希望を強くもっていることからわかるように、地域社会側の課題解決への他の手だての必要性が伺えるのである。

そこで、障害児をもつ家庭へのアプローチとして、個（私）、地域社会的、行政（公）的対応の一連の関係を明確にしてトータルな視点を打出すことである。一方、障害

児をめぐる発達課題、生活課題、地域課題の整理をしていくことが重要である。その拠点となるところは、地域課題に対しては社会福祉協議会、生活課題に対しては福祉事務所、保健所、発達課題に対しては学校、専門施設、児童相談所等である。そして相互に機関、施設の専門独

自性を生かしつつ、チームワークのもとに作動するようすすめられることが求められる。その要の機能を果すのが、何れかの相談機関に所属するソーシャルワーカーとなろう。

（以下は非常に小さい文字で印刷された文章が続く。内容は、児童相談所や福祉事務所などとの連携、専門職の役割、地域資源の活用などに関する詳細な議論と思われる。）

（以下は非常に小さい文字で印刷された文章が続く。内容は、チームワークの重要性、専門職の連携、相談機能の充実などに関する議論と思われる。）